



萌木 6月号

～自尊・立志・感動～



調布市立第七中学校
校長 山田 勝
令和4年6月13日発行

体育祭 -行事を通して得たもの-

校長 山田 勝

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応へのご理解ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

6月4日土曜日、当初予定していた期日より2週間ずれましたが、晴れ渡る青空の下第47回体育祭を実施することができました。

各家庭2名以内での参観のお願いや生徒席の確保のため保護者席の譲り合いなど、保護者の皆様にもご負担いただいた中でしたが、3年ぶりに保護者の皆様の応援の中で実施することができました。生徒たちも予行から20日近く経っていましたが、参観のおかげでより真剣に前向きに競技に取り組んでくれたと思います。また、受付や参観時のお願いや見回りなどPTAの皆様が引き受けてくださり、より円滑な運営ができました。ありがとうございました。



体育祭実行委員会で定めた「一祭入魂」のスローガンのもと、各クラスの実行委員の合図で入場した「選手入場」は圧巻でした。開会式の実行委員長挨拶で「クラスで気持ちのベクトルを揃えてがんばりましょう」の言葉に、生徒の気持ちもまとまり競技が始まりました。

どの競技でも、一人一人が目標に向けて頑張っている姿、一生懸命走る姿、一生懸命跳ぶ姿、そして一生懸命クラスメートと心を合わせる姿を見ることができました。

クラスメートや七中の仲間と力を合わせることで得た経験を、「これができた」「できなかった」などの結果としてだけ残しておいておくのではなく、結果に至るまでのことを振り返り、これからの自分や自分たちの活用できる力としてとらえて、こういう気持ちでみんなと協力したからこそ目標が達成できたと考えることで、自分のよりよい成長につなげてほしいと思います。

今回の体育祭はそれぞれの気持ちの方向がそろって、とても良いものだったと思います。クラスの仲間と心がつながった経験、気持ちのベクトルをそろえることができた経験を、明日からの仲間とのより良い関係を作ること・自分が挑戦していく場面でのよりどころにしていってほしいと思います。